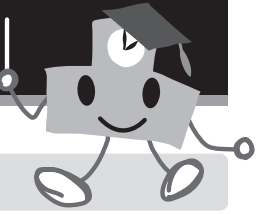


小学校の事例 清田区 真栄小学校

苗植えから枯れた後の片付けまで、花植えの一連の流れを体験。学校を花でいっぱい。

5・6年生の飼育栽培委員会が花の苗を植え、当番制で水やりや草取りなどの世話をを行う。花が枯れた後の片付けまで担当することで、植物や生き物を大切にすることが芽生えている。



内容 区から苗の提供を受け 枯れた後の片付けまで行う

本校では、5、6年生の26名の児童で構成される飼育栽培委員会が、花を栽培して緑を増やす活動を行っている。清田区の環境美化事業をきっかけに、約8年前から取り組んでいる。

苗を植えるところから枯れた後の片付けまで、花の栽培の一連の流れを体験することによって、「植物や生き物を大切にしていこう」という心が育まれている。

活動は5月の苗植えから始まる。区から無料で譲り受けている500～600株の苗をプランターに植え替え、校門横や玄関前に並べている。栽培しているのはマリーゴールド、サルビア、ガザニア、ペチュニアなど。水やりや草取りなどの世話は、休み時間を利用して当番制で実施。花が枯れた後の片付け作業なども委員会でやっている。



玄関前のプランター①

今後 種からの栽培に挑戦 今後は出前授業の活用も

今までは苗から花を育てていたが、次年度は種から栽培する予定。種からの栽培時期や方法を調べ、新たな気持ちで取り組んでいきたい。



玄関前のプランター②

また、昨年からは、4年生の総合的な学習の時間に除雪センターの方に来てもらい、話を聞いたり除雪車を見せてもらったりして、自分たちの地域を見つめ直している。過去には消防署や税金に関する出前授業を受けたこともある。学習の流れを見ながら、他の環境学習の出前授業もぜひ活用していきたい。

広げよう つなげよう 環境学習の輪



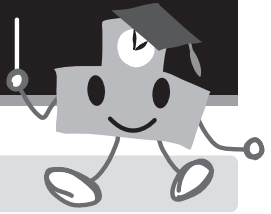
実施校からメッセージ

環境教育を進めていくには、「もったいない」気持ちを育てていくことが大切です。この気持ちを育てることが、ごみの減量や節電などの行動へとつながると思います。また、自然に恵まれている学校や、逆に、自然は少ないけれど見学施設が近くにある学校など、各学校で周りの環境に違いがあるので、内容を統一して環境を学習していくのは難しいと感じます。環境学習は、それぞれの学校の特色に合わせて行っていくのがよい方法だと思います。

小学校の事例 豊平区 あやめ野小学校

学校名由来の花「あやめ」。地域の協力を得た「花育」。そして環境意識の芽生え。

菖蒲園跡地に校舎を建てたことちなみ26年間あやめの栽培を。苗の移植、水やり、草とりなど育てていく過程から環境意識を高める取組に。



はじめ 学校の成り立ちを生かし あやめの栽培へ

本校は、農業専門学校である八紘学園の菖蒲(しょうぶ)園跡地に校舎が建てられたことから学校名がつけられた。それにちなんで開校以来26年、あやめを育てる活動に取り組んでいる。しかし、あやめは育てるのが難しいこともあり、近年あやめが減ってきている状況の中、ぜひ花壇いっぱいにあやめを復活させたいという教師の思いを受けて、苗を植えることとなった。



あやめを植えているようす

内容 これからも続けていくために工夫を

平成22年8月25日に学級活動の時間を利用し、6年生が教室1つ分ほどの大きさの花壇「あやめ園」に苗の移植を行った。苗は八紘学園から格安で売ってもらい、費用はPTAの特別会計で賄った。花の種類は「水天一色」や「舞子の涙」「白竜の爪」などがある。花が咲くのは次年の6～7月で、花の色は紫、赤紫、白、ピンクなど様々だが、咲くまで何色かは分からないため、それも子供たちの楽しみの1つとなり、興味につながっている。インターネットで種類を調べて名前を覚えるなど、子供たちの自主性も高まっている。水やりなどのお世話は4年生が中心となって、主に

総合的な学習の時間に行っている。春の雪解けの時期には雑草が多く、草取りも実施。花を育てていくことで自然と生物の関わりや天候についても考えるように。あやめを植え育てていくことを体験することで「花育」から「植育」へとつながっていく。そして環境意識への芽生えになっていると考える。

子供たちのやりたいことを尊重したいが、時間の確保が難しい。来年度から教育課程が変わるため、さらに厳しくなるだろう。また、あやめは育てるのが難しく、枯れてしまうことが多いため、育て方を工夫・改善していく必要がある。

広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校からメッセージ

費用・時間・労力がかかるが、体験活動で本物に触れることがとても大切です。知識も必要ですが、今の子どもは実体験が乏しく、頭でっかちになっているように感じられるので、自分で体験し、考える機会を増やしていくべきではないでしょうか。例えば、植樹活動をするのなら「なぜ木を植えるのか」「植樹によりどんな効果・影響があるのか」「何十年後にはどうなるか」などを、他人事ではなく、自分の事として捉えられるように、教師も工夫していきたいと思っています。世界各国で活躍できるような、環境をよくしていこうと自ら考えられるような大人になってほしいと願っています。